保育構想案

草津市立玉川こども園　伊藤華子

1．活動名　　5歳児　『カレーパーティーをしよう』

2．子どもの姿と読み取り

・園庭や畑で地域の方などにも協力していただきながら、様々な野菜を育てている。世話をして成長を喜んだり、収穫を楽しみにしたりする子どもたちの姿が見られる。
・一人一鉢ずつ植物を育てている。水やりをするときに、水がやれていない友だちに声をかけたり、休みの友だちの水をあげたりと自分の栽培物だけでなく友だちの栽培物のことも気にかけながら世話をする姿がみられる。一方で、毎回友だちに声をかけてもらうまで植物の世話に気持ちが向かない子どもの姿もある。
・戸外遊びの中で、異年齢の友だちが自分たちの遊びに興味関心をもっていると、遊び方を教えてあげたり、遊びに誘ったりする姿がある。自分より年下の子どもに対して優しく関わり、教えたり手伝ったりすることに喜びを感じている姿がある。
・困ったことなどがあると、クラスのみんなと話し合いをして、どうしたらいいかみんなで考えようとする姿があり、解決に向けて意見を出し合う姿がある。

3．めざす子どもの姿

・食べることに喜びや楽しさを感じる
・友だちと同じ目的に向かって協力し、最後までやり遂げようとする
・身近な人たちのために行動することに喜びを感じる

4．活動のねらい

・自分たちで栽培し、収穫した野菜を食べることに喜びを感じる（知識及び技能の基礎）
・友だちとカレーパーティーに必要なものを考え、意見を出し合いながら準備を進める（思考力・判断力・表現力の基礎）
・異年齢の友だちと関わることを喜び、思いやりをもって接する（学びに向かう力・人間性等）

5．評価規準

ア知識及び技能の基礎	イ思考力･判断力･表現力の基礎	ウ学びに向かう力・人間性等
①野菜の世話の仕方や、成長の過程を、実際に経験したり、図鑑で調べたりして知っている。 ②自分たちで育てた野菜のおいしさを感じている。	①カレーの具材やカレーパーティーに必要なものを、みんなで意見を出し合って考えている。 ②招待状や会場の飾りなど自分たちで考えて作っている。	①カレーパーティーを楽しみにしながら友だちと協力して準備をしている。 ②異年齢の友だちを招待して、一緒にカレーを食べることを喜んでいる。

６．環境構成

〇活動の設定理由（児童観）

・ポタジェ栽培やサツマイモの苗植えなど、地域の方に来ていただき、植え方や世話の仕方など教えてもらいながら栽培活動に取り組んでいる。

・いろいろな野菜の収穫を体験して、園や家庭で調理して食べることを喜び、苦手な野菜を食べることができたことや、いつもよりおいしく食べることができたことを嬉しそうに伝えに来る。自分たちが栽培、収穫した野菜はいつも食べている野菜とは違う特別感を感じている様子である。

・当番活動に期待をもって取り組んだり、遊びの準備や片付けを自分たちでしようとしたり保育者の手を借りずに自分たちでしようとする姿が増えてきているが、友だちに任せがちになる子どもの姿も見られる。自分がしなくても他の誰かがやってくれるという意識のある子どももいることが気になる。

・クラスの話し合いの場では、最初は特定の子どもの発言が多かったが、回数を重ねることで自分なりの考えや意見を言える子どもが増えてきた。また、困ったことなどがあった時は「みんなに聞いてみよう」と保育者に伝えに来る姿があり、みんなで考えることでより良い方法が思いつくと経験の中から感じている様子がある。

・遊びの中で異年齢の友だちとの関わりを喜び、自分がお兄さんお姉さんであるという意識をもちながら一緒に遊んだり、関わったりする姿があり、親しみをもって接している。

〇教材について（教材観）

・自分たちで成長を見守り、世話をしてきた野菜を使うことでより親しみを感じ、食べる喜びを感じることができる。

・カレーは身近で子どもたちに人気のメニューであり、いろいろな具材と合うので、話し合いをするときに意見を出しやすく、子どもたちにとってもイメージしやすい。また、収穫した野菜から子どもたち自身で連想しやすい料理である。

・必要な具材を買いに行くなど、自分たちの地域に出向くことで、地域の人との交流が生まれ、地域の人とのつながりを感じたり、親しみをもったりできる機会となる。

・カレーパーティーは園で毎年行っており、これまでは年長組に招待してもらってきたので、どのような準備が必要かイメージをもちやすく、共有もしやすい。また、自分たちがしてもらって嬉しかったことを今度は自分たちがするんだという喜びや期待をもって取り組むことができる。

〇展開の工夫（指導観）

子どもたちが栽培物の成長を喜びながら、収穫に期待をもって世話ができるように、成長の様子を共有したり、図鑑を用意して疑問があった時に調べることができるようにしたりする。また、収穫後は収穫した野菜を使ってどんな料理が作れるか考えたり、実際に家でどんな料理をして食べたのか聞きそれを共有したりして、野菜を使って様々な料理が作れることを知る機会を設け、自分たちが収穫した野菜はいろいろな料理になることに気付けるようにする。

その後、収穫した玉ねぎ、ジャガイモ、人参という野菜の組み合わせや自分たちの経験から、カレーパーティーをしたいという子どもたちの思いを引き出し、具体的な話し合いへと進めていく。

子どもたちの「こうしたらどう？」「これはどうだろう」という意見を拾い上げ、それに対するクラスみんなの意見を聞きながら話し合いを進めていけるようにし、子どもたちが自分たちで考えながら主体的に話し合いができるようにする。疑問があった時には保育者がすぐに答えを出さず、自分たちで考え

て、自分たちなりの答えを出したり、実際に自分たちで行動に移して確かめたりできるように援助する。園の中だけでなく、実際に消防署に行っておいしいカレーの作り方の話を聞いたり、地域のスーパーに出かけて買い物をしたりすることで地域のつながりを感じ、また、いろいろな人に支えてもらいカレーパーティーができることに、感謝の気持ちがもてるようにする。スーパーでは子どもたちが産地などにも気付けるように配慮して、スーパーで販売されているものも、人々の営みの上で成り立っていることを感じることができるようにする。

自分たちのためだけでなく、玉川こども園みんなのためにという気持ちを大切にしながら準備を進めていき、園で育てた野菜をみんなで一緒に食べることへの期待や喜びを感じることができるようにする。

会場の準備や異年齢の友だちの招待などクラスの友だちみんなと協力するからこそできることを実感し、片付けまで自分たちですることで責任をもってやり遂げたという実感と、自分たちでできたという達成感を感じることができるようにする。

７．ESD との関連

〇活動を通して養いたい ESD の視点

Ⅰ　多様性

話し合いの中で、いろいろな考え方があることを知る

Ⅴ　連携性

友だちと協力してカレーパーティーに向けて準備をする

〇活動を通して育てたい ESD の資質・能力の基礎

他者と協力する態度

カレーパーティーを成功させるために友だちと協力して準備を進める

つながりを尊重する態度

異年齢の友だちを思いやりながら関わる

準備の過程で、地域の人や身近な大人に支えられていることを感じる

〇ESD で育てたい価値観の基礎

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

こども園のみんなにカレーパーティーを楽しんでもらうことを喜ぶ

色々な人に支えられていることを感じ、嬉しく思う

〇達成に貢献できる SDGs

２飢餓をゼロに

３すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

１５陸の豊かさを守ろう

８．展開

予想される子どもの活動	保育者の環境構成と援助	評価
○野菜を栽培、収穫する	・野菜の成長の喜びを子どもと共有する。 ・野菜の図鑑や本などを用意して、自分たちで調べることができるようにしておく。	ア①
○カレーパーティーに向けて話し合いをする	・収穫した野菜に加えて何の野菜を入れたいかクラスで話し合いをする。好きな野菜やカレーに合う具材など子どもたちが進んで意見を出せるよう、子どもたちの意見を受け止めていく。	イ①
・異年齢の友だちに好きな具材を聞く	・こども園みんなで美味しく食べるにはどうしたらいいのか自分たちで考えることができるように援助する。	ウ②
○カレーパーティーに向けて準備をする		
・消防署に隠し味を聞きに行く	・園の中だけでなく、地域の人とのつながりを感じながら準備を進めていけるようにする。	
・カレーの材料を買いに行く	・野菜の産地などにも意識がもてるように声掛けをしていく。	
・招待状を作ったり、会場の飾りを作ったりする	・招待する異年齢の友だちのことを考えながら、友だちと協力して必要な準備を進めていけるようにする。	ウ①
○カレーパーティーをする		
・野菜を洗ったり、玉ねぎの皮をむいたりする	・自分たちで収穫した野菜を使うことを喜びながら、丁寧に皮をむいたり洗ったりできるように声をかける。	
・職員室の先生に調理をお願いする	・職員室の先生たちに、事前に足りない材料を買い出ししたものを届けたり、消防署の方に聞いた隠し味の話などを伝えたりしておいしいカレーを作るために協力をお願いしておく。	
・カレーパーティーの準備をして、異年齢の友だちとカレーを食べる	・自分たちで育てた野菜を食べることの喜びやみんなで食べることの楽しさを共有する。	ア② ウ②
・片づけをする	・机を拭いたり、机やいすを片付けたり、また、会場の床を掃いたり拭いたりするなど、役割分担をしながら自分たちで最後まで片付けができるようにする。	
・カレー作りに協力してくれた先生たちにお礼を伝えにいく	・自分たちだけでなく、いろいろな人の力を借りてカレーパーティーができたことに気付き、感謝の気持ちをもてるようにする。	

9．振り返り記録、成果と課題

4・5月

葉っぱが大きくなってる！土の中の野菜も大きくなったかな

栽培物の世話をする

一緒にやってみよう！

異年齢の友だちと遊ぶ

こうやってするんだよ

栽培活動に興味・関心をもつ

異年齢の友だちに親しみをもち、関わる

6月

野菜の収穫をする

早く食べてみたいな

消防署では自分たちでカレーを作るんだって！おいしいカレーの作り方を知っているかも…

はな組さんやにじ組さんは何の具材を入れてほしいかな、聞いてみよう

※A ※B

カレーライスの具材を話し合う

※C

消防署にカレーをおいしく作るコツを聞きに行く

7月

地域とのつながりを感じる

私はきのこ入れたいけど、入れたくない友だちもいる

この野菜の産地はどこかな

カレーパーティーに必要なものを買いに行く

こども園のみんなの分は、どれくらいの量が必要かな

※D

年少組さんと年中組さんに招待状を作る

何て書こうかな

同じ目的に向かって協力し合う

どんな飾りを作ろうかな

カレーパーティー会場の飾りを作る

みんなが喜んでくれるといいな

※E カレーパーティーをする

いよいよカレーパーティー、楽しみ！

いつものカレーよりおいしい！

【成果事例】

※A『カレーの具材は何にがいいかな』

クラスの話し合いの中で、入れたい具材を考えていた。最初は自分たちが食べたい野菜や具材を話していたが、A児が「はな組さんや、にじ組さんはこの野菜食べられるかな」とカレーパーティーに招待する年少児（はな組）や年中児（にじ組）を気に掛ける姿が見られた。それを受けて他の子どもたちも「はな組さんやにじ組さんがカレーに入れたい具材はなんだろう」「聞いてみないとわからないね」と意見が出て、実際に聞きに行くことになった。各クラスでカレーに入れたい具材を聞いて、それをクラスにもち帰り、自分たちが入れたい具材と聞いてきた具材をすり合わせ、具材を決めていった。

・一緒に食べる年中少児のことも考えながら、みんながおいしく食べることができる具材を決める姿
（つながりを尊重する態度・コミュニケーションを行う力）
・クラスのみんなとカレーパーティーの具材を何にするのか意見を出し合って考える姿
（他者と協力する態度）
・自分たちで異年齢の友だちに具材の確認が必要なことに気が付き、実際に何の具材がいいのか聞きに行く姿（進んで参加する態度）

◎子どもたちは、実際に自分たちが年中少時に経験してきたカレーパーティーの経験から、カレーパーティーに期待をもっており、自分たちで準備を進めていくことに意欲的で、話し合いにも積極的に参加する姿が見られた。そして、自分たちが楽しんできたように、異年齢の友だちにも楽しんでもらえるカレーパーティーにしたいという思いで話し合いを進め、その中で出た疑問を実際に行動に移して確認するなど、主体的に活動を進めていく姿につながった。

※B『きのこを入れるか、入れないか』

話し合いの中で、きのこを入れたいという意見が出た。一方できのこを入れたくない子どももおり、意見がぶつかった。どうやって決めるか悩んだ末に、子どもたちの中から多数決の提案が出た。多数決の結果、きのこを入れたい子どもが多かったので、入れることに決まったが、きのこを入れたくない子どもは不満な様子であった。その様子を見た B 児は、自分はきのこを入れたい派だったが、「多数決で決めるのは違う気がする、他に方法はないかな」と提案したので、保育者も「みんなが楽しめるカレーパーティーにするにはどうしたらいいかな」と投げかけた。さらに話し合いを進めると、「きのこ入りカレーときのこ無しカレーを２つ作るのはどうか」という意見が出て、みんなの意見が一致した。その後、実際にカレー作りをする職員室の先生たちのもとへ行き、経緯を話して、お願いをした。

・きのこを入れるか入れないかを多数決で決めることは、みんなで楽しくカレーを食べることにつながらないことに気が付き、より良い方法をみんなで考える姿
（批判的に考える力・多面的、総合的に考える力・コミュニケーションを行う力）
◎自分の主張を通すことだけを考えるのではなく、相手の立場になって考えることで、多数決では決めることが難しいことに気付き、どちらかの意見に決めてしまうのではなく、みんなが納得できる別の方法を考えることにつながった。

※C『隠し味は何にする？』

話し合いの中で隠し味を入れたいという子どもの意見があり、実際に隠し味を入れることになった。調べたり、おうちの人に聞いて自分の家の隠し味を提案したりするなどしていたが、何を入れるのか、なかなか決まらなかった。そんな中、消防士さんは当直勤務などでカレーを作る機会があることから、カレー作りが上手であるという話を知り、実際に消防署に行っておいしいカレーを作るコツを聞きに行くことになった。消防士さんに、隠し味にバターとマヨネーズを使っていることを聞いて、自分たちも同じ隠し味で作ってみることになった。

・カレーの隠し味を何にするのか、調べたり、身近な人に聞いたりしながら友だちと相談する姿
（コミュニケーションを行う力）
・実際に地域の消防士さんに隠し味を聞きに行く姿
（つながりを尊重する態度・進んで参加する態度）

◎隠し味について自分たちで調べたり、身近な人に聞いたりするだけでなく、地域の人に教えてもらうことで、自分たちの地域を身近に感じ、地域とのつながりを感じることができた。

※D『招待状を作ろう！』

カレーパーティーを進める中で、自分たちの今までの経験から、はな組さんや、にじ組さんに招待状を書こうという提案があった。自分たちで必要な大きさの画用紙を用意すると、「なんて書く？」「カレーパーティーの日は書かないとね」などと、友だちと相談しながら書く姿があった。また、絵をかいたり、折り紙を折って装飾したりと、異年齢の友だちに喜んでもらいたいという気持ちをもって、作る姿があった。

・異年齢の友だちにカレーパーティーが行われる日時や場所を伝えるために招待状を作る姿
（未来を予測して計画を立てる力）
・異年齢の友だちに喜んでもらえるように、友だちと相談しながら招待状の装飾をする姿
（他者と協力する態度・つながりを尊重する態度）

◎自分たちが主体となり、異年齢の友だちを招待するという思いが招待状作りにつながった。

※E『みんなで食べるカレーはおいしいね』

異年齢の友だちをクラスに迎えに行き、カレーパーティーの会場に案内して、食事の準備を促したり、手伝ったりする中で、「リュックはここだよ」「手伝おうか？」「次は手を洗いに行こうか」などと優しく声をかける姿が見られた。カレーを食べ始めると「すごくおいしい！」「いつも食べるカレーよりおいしい！」と喜び、子どもたち同士で話しながら嬉しい気持ちを共有する姿が見られた。
・異年齢の友だちに思いやりをもって接し、相手のことを考えながら関わる姿

（コミュニケーションを行う力・つながりを尊重する態度・進んで参加する態度）
・自分たちが育てた野菜を食べることを喜ぶ姿（つながりを尊重する態度）

◎年長児としての自覚をもって異年齢の友だちと関わり、一緒にカレーパーティーができることに喜びを感じていた。自分たちで育てた野菜を使い、自分たちで話し合って決めた具材も入れて出来上がったカレーなので、よりおいしさを感じ、また、みんなで食べることの喜びを感じることができた。

【課題】
・今回は栽培活動からカレーパーティーへとつながる活動をしたが、ESD の環境に対する視点が弱く、栽培活動の中で、土作りを経験したり、コンポストを活用したりするなど、栽培して収穫するだけではなく、子どもたちが土の再生や循環についてなどを知ったり学んだりする機会がもてるとよかった。
・スーパーでの買い物では、産地や流通などを意識するきっかけとなったが、そこで終わらせず子どもたちの体験を活かして保育に結び付けていき、より学びが広がるような工夫が必要である。
・活動の中でお世話になった地域の人を招待して一緒にカレーを食べたり、活動後にお礼の手紙を書いたりすることで、より、つながりを感じ、お世話になった人たちへの感謝の気持ちをもてたのではと考える。
・今後も、話し合いをしながら自分たちで考え、友だちと協力して主体的に活動を進めていく経験を重ねていくことで、互いに協力して問題を解決していく力につながっていくのではないかと考える。
・日々、保育者が ESD の視点をもちながら子どもたちと関わることや、環境の中にも ESD を取り入れ、子どもたちが知ったり学んだり、また、感覚として身に着ける機会を多くもてるようにすることで、子どもたちの行動の変容が促されると考える。そのためにも保育者自身が ESD についての学びを深め、日々の実践につなげていかなければならない。